

初任者の心得

* 学校に子ども達が戻ってきて、いよいよ新学期が始まりましたね。希望のスタートです。これから1年間、学校現場のいろいろな事柄にふれながら、その留意点について述べていきたいと思ひます。

1 服 務

- ① 出勤簿の押印 … 毎朝押す。毎日押さないと事務さんに迷惑をかける。
(まとめて押さない)
- ② 身なりに注意、場に合った服装を
 - ・出勤・退勤時 … スーツ・ネクタイ、教師は誇り高い職業。外では保護者に見られている。車通勤だと服装がいい加減になる。
 - ・学習時 … 教室・特別教室・グラウンドによって場に合った服装を。
 - ・清掃時 … ジャージ、私服等子どもと一緒に動きやすい服装。
 - ・全校集会 … スーツ・ネクタイ。(身なりを整える)
 - ・校外学習引率 … 目立つ色の服装がよい(子どもが発見しやすいように)
 - ・ヒゲのぼし、汚れた服装はダメ。(保護者の信頼を失う)
 - ・靴は運動靴(サンダル×、緊急時に走れない)
 - ・女性は長い髪はしぼる。(机間指導時や救助の時の障害となる)
 - ・ピアス×、下着が透ける服×(子どもに注意できなくなる)
 - ・子どもに禁じていることは教師もダメ。(教師はいいんだよは通用しない)
- ③ 勤務時間
 - ・8:05～16:35(勤務7時間45分+休憩45分=在校時間8時間30分)
 - ・残業は月80時間以内に…過労死の認定対象(文科省は月45時間以内を目安に)
- ④ 出張
 - ・開始30分前には到着。(受付開始時には、出張先にいるようにする)
 - ・服装はスーツ・ネクタイで。
 - ・うわばき持参。(他校に行くときも同じ、学校のスリッパは使わない)

2 文書管理

- ① 項目ごとに専用 File を作る … 時系列でインデックスをつける
 - ・日報・週報用
 - ・職員会議用(年間2冊ぐらいになる)
 - ・学校行事用
 - ・学年会の記録
 - ・研修用(校内の研究用)
 - ・初任者研修2冊(校内初任研用・校外初任研用)
- ② 週案
 - ・教科の指導予定を3ヶ月先まで記入(中間・期末テまでの残り時間を把握する)
 - ・授業時に発表した子ども等の記録を詳細に…評価に生かす。
 - ・授業時にあった出来事を記録(遅刻・早退、トラブル等)…記録が証拠となる。
- ③ 出席簿 … 毎日記入。(健康観察表を見て1ヶ月分記入するのはだめ)

3 授業の基本

- ① 授業規律は年間を通してブレない。
 - ・始業と終業の挨拶の徹底。(やっていない子どもを見逃さない)
 - ・私語の中で話を進めない。(全員黙るまで待つ)
 - ・挙手・起立して発表が原則。
- ② 授業前の準備と練習、シミュレーションを欠かさない。
(ぶっつけは×、失敗したら信頼を失う)
- ③ 板書専用ノートを教科別にする。
文字の大きさ、チョークの色、配置等のレイアウトをイメージするため。
(黒板に向かったままその場で考えていると見透かされ、子どもはノートをとらなくなる)
- ④ 授業の質を上げる努力をする。
(わかりやすい授業、わかりやすい板書、核心をつく発問等)
- ⑤ 子どもと共に作る授業、主役は子ども。(教師の説明だけの一方通行は眠くなる)
- ⑥ ほめて育てる。できていない子を叱るよりも、できている子を褒める方が効果的。
(全体の場合ではめられることでむくわれる)
- ⑦ 机間指導をまめに(全体を見渡ししながら個別指導、赤ペン指導、指名計画を立てる)
- ⑧ テストの出来・不出来は自分の教え方の反映。
(できが悪いのは子どものせいではないと思え)
- ⑨ 授業を楽しむ。(教師が楽しめば子どももその教科が好きになる)
- ⑩ 道徳はつぶさない、やり続けるとおもしろい。
- ⑪ 余裕を持って終わる。(チャイムが鳴っても続けるのは効果なし)
- ⑫ 自分の板書を毎時間写真に撮り、振り返る。

4 学級経営

- ① どんな学級にしたいのか、担任の思いを子ども達に常に伝えていく。
- ② 学級目標はあとで振り返ることができるよう、具体的な目標にする。達成したら次の学級目標を掲げる。(1年間変わらぬ目標は、黒板の上で古びてしまう)
- ③ やらせるのではなく、子どもと共に歩む。共に学ぶ喜びがある。
- ④ 子ども達の写真はいっぱい撮る。(成長の証し、学級掲示や学級通信に使える)
- ⑤ 学級掲示は同僚から盗め。
(学級掲示には、子どもへの思い入れや教師のスキルが入っている)
- ⑥ 学級通信のすすめ(作り始めるとはまる。2週間でA4、1枚のペースが手頃)
- ⑦ 保護者会は、充分準備をする。
(子どもを共に育てるという共通点、親同士のつながりを深める場でもある)
- ⑧ 保護者面談はまず子どもを褒めよ。そのあとで直してほしいことに触れる。
(逆だと暗くなる)
- ⑨ 希望の登校、満足の下校(学校に行きたいと希望を持って登校し、明日も来たいと満足して下校する子どもの姿は教師にとって最上の喜び)

5 生徒指導

- ① 子どもが好きが基本。(子どもは敏感なので気づく)
- ② うそはつかない。子どもは公平な先生が好き。
- ③ 子ども理解
 - ・まず名前を覚えることから
 - ・上から目線はだめ、子どもの言い分を聞く
 - ・子どもが髪の毛を切ったことに気づく教師に
- ④ 子どもに向き合うだけでは不十分、そのあと同じ方向を向くのが大事。
- ⑤ 怒るのではなく、しかる。(言葉を選ぶ、人権に配慮)
- ⑥ ブレない、子どもに迎合しない。(子どもは境界線すれすれで教師を試してくる)
- ⑦ 先手をうつ指導。(積極的な生徒指導、何か起きてからの事後指導は敗北と思え)
- ⑧ 素行の悪い子どもの声に耳を傾けよ。
(悪い子どもほど感情をストレートに出すので、そこには本質がある)
- ⑨ タイムリーな指導(明日やろうはだめ、今やっておかないと後でもっと苦しくなる)
- ⑩ Iメッセージのすすめ。主語を「あなた」から「私」に変える。
「なぜあなたはこうしないの」 → 「私はこう思うよ」
「何度言ったらわかるんだ」 → 「あなたが覚えてくれると私は助かるよ」
- ⑪ 学年の教師であれ(自分の学級だけ見てればいいはだめ、担任を超えて全部の担任)
- ⑫ 管理職をうまく使え。
(問題が起きたとき、一人で何とかしようとしな、きっと助けてくれる)

6 現場で学ぶ … OJT (On the Job Training)

- ① 先輩の技を盗む。(どんどん聞く、聞けば丁寧に教えてくれる。まずは真似から)
- ② 何事も経験。毎日がP D C Aサイクル。
Plan(計画) Do(実行) Check(評価) Act(改善) で力量を上げる

7 その他

- ① プロであれ。(初任者だから通用しない)
- ② やるからには一流を目指せ。(これでいいと思わず、教師を極めるつもりで)
- ③ 迷ったら原点に戻れ、誰が主役か。
(子どもにとってどうなのかが第一。教師にとって楽だから進歩が止まる)
- ④ 教え子が教師になったら最高。
(目の前にいる子どもが将来、同僚になるかと思ったら接し方が変わってくる)
- ⑤ 睡眠は大事、睡眠時間を逆算して早く帰る。明日子ども達に元気な姿を見せるためにも、11時に帰ってはいけない。(ブラック職場にならないために)

- 学校ではいろいろな出来事が起こります。起こって当たり前、それが学校。喜びもつらさもまるごと楽しむ。遊び心も忘れずに。